

質問 地域公共交通の更なる拡充について、①Aバスの路線が4ルートへ拡充されたが、交通不便地域の解消には更なる拡充が必要と考える。利用者の輸送ニーズにに応じて運行ルートや乗降場所を柔軟に設定できるデマンド型や、電動で時速20km未満で公道を走る、4人乗り以上のモビリティであるグリーンスローモビリティの活用による長期的な計画として取り組む考えは。

答弁 効率的・効果的に維持・運営を行っては。便性の高い交通ネットワークの構築に努めるとともに、長期的な計画として、次世代型交通モビリティシステムの活用を含めた交通網について、研究していく。

質問 地域公共交通の利便性の向上のため、Aバスへの性向上のため、Aバスへの交通系ICカードやキャッシュレス決済を導入し、4ルート1日乗り放題のチケットをサブスクリプション形式のさき乗りチケットとして販売しては。

答弁 他市の状況等を参考に調査・研究していくとともに、新たなサービスの提供に関し、利用者の立場に立つた利便性の向上を目指し、持続可能な地域公共交通の実現に向け、バス事業者と協議・調整していく。

持続可能な地域公共交通の実現に向けて

公明党昭島市議団 吉野 智之 議員

一般質問（要旨）



上手に跳べるかな
(エコ・パーク)

質問 市内の新型コロナウイルス感染症自療養者支援について、①都の支援体制で十分対応できているのか。②市独自にパルスオキシメーターの貸与、消毒液・ビニール手袋等の支給を行うべき。

答弁 ①保健所を中心とした支援体制により一定の対応は可能であると認識している。②在宅療養者の住所等を把握し、更なる周知を図るべき。

質問 ひとり親家庭の支援について、①公正証書等作成促進補助金や養育費の保証促進補助金の創設を図る見は。②がんや難病により、あらゆる媒体を活用もたれに對して、医療機関と連携し、在宅支援のシステムを構築する考えは。

答弁 ①関係機関やこうした事業を管轄する都と連携し、その取り組みの実現に向けて、病気の子どもや、その家族の気持ちに寄り添っていききたい。②訪問看護の体制を確保するとともに、医療機関等の支援事業者と連携し、在宅医療の総合的な支援システムの構築に向けた取り組みを進めていきたいと考えている。

市民の命を守る取り組みについて

公明党昭島市議団 松原 亜希子 議員

質問 待機児童が解消されず、働き方が多様化する中、子どもの預け先の選択肢を増やすことが重要になってくる。①課税対象だったものが、令和3年4月から、非課税になるなど、大幅に見直しが行われた都が進めている365日24時間利用可能なベビーシッター利用支援事業を取り入れるべき。②産後ケア事業について、法改正に合わせ現在生後4か月までだが、1歳まで延長する市もあり、拡充予定は。

答弁 ①保護者のニーズ等を総合的に勘案する中で、引き続き、研究していく。②検討中であり、他市に遅れることのないように実施していくと考えている。

質問 安心・安全な都市整備について、①昭島都市計画道路3・2・11号の工事に伴い、昭和中学校西側の通路が閉鎖されたが、安全・防災の面から、再設置する考えは。②公園の駐輪場設置と看板のピクトグラムへの考えは。

答弁 ①再設置に国・都と調整をしており、暫定措置として北側通路の早期設置を調整している。②駐輪場新設は困難性がある。ピクトグラムの重要性は認識しており、庁内で協議していきたい。

子育て世代への支援について

無党派 会派 ゆぎ まさ子 議員

質問 市民の暮らし、医療と健康を守ることに、①国民健康保険制度は、誰もが安心して加入できる制度でなければならぬ。均等割廃止を検討すべき。②新型コロナウイルスの影響を受け、国民健康保険税の納付が困難になった世帯に、①低肺機能患者への酸素濃縮装置電気代等の補助、減免分を国が補填する制度はあるのか。③政府は75歳以上の高齢者の医療費負担を2倍にするとしてい

答弁 ①制度の運営自体に大きな影響が生じかねず、市独自の廃止は困難である。②今回の減免は、国の財政支援により実施している。③国民皆保険制度を維持していくために、やむを得ないものと理解している。

質問 在宅難病患者への電気代等助成制度の創設を

答弁 ①他市の対応を参考に研究したい。②財源措置等の課題があり、どのような対応が可能か検討したい。

質問 生活保護行政について、①生活保護の申請者が扶養照会を行わないよう伝えたいが、照会が行われた事例がある。見解は。②ケー

答弁 ①法律の規定で扶養義務者の扶養は生活保護に優先して行われるとされてお

質問 在宅人工呼吸器使用患者への自家発電装置への助成を他市を参考に早急に制度化すべき。

答弁 ①法律の規定で扶養義務者の扶養は生活保護に優先して行われるとされてお

在宅難病患者への電気代等助成制度の創設を

日本共産党昭島市議団 荒井 啓行 議員

討論（議案）

本会議での採決に先立ち、討論が行われました。

**令和3年度当初予算を可決とする
委員長報告について**

一般 会 計

賛成 賛成 自由民主党昭島市議団 高橋 誠 議員

市税が9億円を超える大幅な減となる厳しい状況の中、特定財源の確保に加え、可能な限り市債の活用や、

財政調整基金を取り崩すことで、必要な分野に適切な予算を計上しており、将来を見据えた予算として大変評価すべきものである。

持続可能な行財政の運営を推進していくことを願い、本予算に賛成する。

賛成 賛成 公明党昭島市議団 吉野 智之 議員

本予算は、厳しい財政状況の中で、デジタル化推進計画策定、GIGAスクール構想、可燃ごみ処理施設

整備計画策定に向けた調査市民防災マニュアル作成等の事業費を計上している。

コロナ禍を乗り越え、新しい生活様式を構築していくための新たな行政課題への積極的な取り組みを高く評価し、本予算に賛成する。

賛成 賛成 公明党昭島市議団 林 まい子 議員

航空機騒音測定機器の設置を予算に計上したことを高く評価する一方、共同調理場第一調理室の民間委託

について、市民へのしっかりとした説明と意見聴取を行い、事業を進めてほしい。

新型コロナウイルス感染症の問題も含め、日米地位協定の抜本的見直しを国に求めるべき点などを指摘し、本予算に賛成する。

反対 反対 日本共産党昭島市議団 奥村 博 議員

PCR検査を週2回に減らすなど、コロナ危機の下での市民の苦難軽減策は極めて不十分である。

また、コスト削減のため次々と民間に委託する行財政改革を行ってきたが、最少の経費で最大の効果を挙げるための行財政運営は、公的責任の後退につながる。以上を指摘し、本予算に反対する。